

現状分析

- 令和5～7年度第2期アクションプランの取組においては、本県初となる国際定期チャーター便の就航など個別の分野で大きな成果が得られた一方、**オンライン会議の普及によるビジネス需要の減少、空港スタッフの人材不足、施設の狭隘化等により、国内線の利用者数はコロナ禍前の水準に達していない**などの課題がある。
- 令和9年春の全面供用開始を目指して、現在県が整備を進めている新ターミナルビルは、**搭乗待合室や旅客搭乗橋（PBB）は内際共用であるため、国際線の受入拡大はもとより国内線施設の狭隘化の解消も期待**できる。

今後の方向性

新ターミナルビルの供用開始を見据え、「台湾線の定期便化・増便」、「新たな国際線の就航」、「国内線の増便・機材の大型化」を目指す新たな目標を本年度末までに策定。あわせて、新たな目標の達成のために、**関係者が連携して取組むべき具体的な施策についても検討。**

<想定される具体的な取組>

- **新ターミナルビルの着実な整備** : 令和8年秋の一部供用開始及び令和9年春の全面供用開始を目指して、着実に整備を進める
- **空港スタッフの人材確保・定着への支援** : 国内線及び国際チャーター便運航時に対応可能なグランドハンドリングスタッフや保安検査スタッフの確保に向けて、事業者が行う人材確保の取組を支援
- **新たな航空需要の開拓** : コロナ禍以降減少したビジネス需要に代わる新たな需要の開拓
- **国際チャーター便・定期便の誘致** : 新規就航を見据えた国際定期チャーター便及び定期便の誘致
- **旅客の利便性向上** : 国際線施設の内際共用による既存施設の狭隘化解消、慢性的な駐車場の混雑解消策の検討

今後のスケジュール

